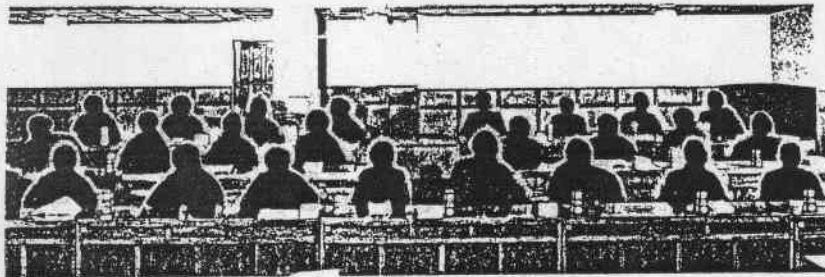




議員定数削減

昭和六十年第三回小浜市議会定例会が六月十九日に招集された。
会期を二十八日までの十日間と決め、直ちに審議に入った。



今期定例会には昭和五十九年度小浜市国民宿舍及び小浜ユース・ホステル事業会計決算、昭和五十九年度小浜市水道事業会計決算の認定二件、昭和六十年小浜市一般会計

補正予算をはじめ十一議案が提案された。
二十一日、二十二日の二日間にはわたり六名の議員が大学誘致問題について、庁舎建設事業の再開について、自治体のOA化等市政全般にわたり理事者の姿勢をただした。
二十三日より二十七日までを休会とした。
二十八日は本会議を開き、

国鉄民営化、ローカル線廃止、国鉄運賃値上げ反対等についての請願を閉会中の継続審査とした後、総務、建設、産業経済、教育民生の各常任委員長より報告がなされ、質疑、討論、採決の結果原案どおり承認、可決した。

続いて、松尾 剛産業経済常任委員長より昭和六十年産生産者米価と米穀政策に関する意見書提出についての、提案理由の説明がなされ、原案どおり意見書を可決して関係機関へ提出した。

続いて公立小浜病院組合議会議員、若狭消防組合議会議員の選挙が行なわれた。(選挙の結果は二ページに掲載)

続いて、固定資産評価審査委員会委員、人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて池野秀雄君、北川淳一君を選任したいとする人事案件が提案をされ、これが案件について同意をした。

次の一般選挙から24名に

続いて、松崎茂明議員外十七名から小浜市議会の議員の定数を減少する条例の一部を改正する条例について、を日程に追加したいとの議案が提出された。

議題に供された後、松崎議員より「本市の議会議員の定数は昭和三十九年十二月議会が議員の定数を減少する条例が可決され、昭和四十二年の統一選挙より二十六名の議員数をもって今日に至っている。以降五回の統一選挙が執行され、この間選挙運動期間中に議員定数を減員しては、との声をしばしば耳にした。

本市の人口推移を見ると減員を実施した昭和三十九年は三万五千七百余名、現在は三万四千余名である。

一方、県はもとより石川、富山、滋賀県の類似市において近年議員の減少傾向が進んでいる状況下にある。
大野市においても一昨年の

十二月議会で法定数三十名のところ(八名減)二十四名の定数に条例が改正されている。
本市においても各党派の代表者による議員定数問題研究委員会を設置して会議と視察が実施されてきたところである。

市民の声を市政に反映させる場合は、議員に課せられた大きな使命であり、自治体はそれぞれ異なった自然、社会的条件を十分配慮しつつ定数問題を検討しなければならぬ。
現在わが国は、国、地方の区別なく財政事情が逼迫している事実をつぶさに考える時、議員自らが自からの問題として、また国民的課題として定数問題に取り組まなければならない時期であると考えた次第である。

当市においても、今日の社会情勢ときわめて厳しい財政事情を踏まえ、議員自らが範を示し、率先して、この厳しい社会情勢に対応しなければならぬと考え、熟慮に熟慮を重ねた結果、条例定数二十六名を二名減員して二十四名とし、次の一般選挙から適用したい」との提案理由の説明がなされた。

質疑、討論を経て採決に入り賛成多数で原案どおり可決して第三回小浜市議会定例会を閉会した。

6月定例会市議会の一般質問が6月21日、22日の2日間にわたり大学誘致問題、大学問題と庁舎建設事業に関連する諸問題について6名の議員が一般質問を行なった。

質 問

なぜ、今小浜に理工系大学なのか

現在まで市政を担当してま

いった理事者といわず議会、商工会議所、農業界、漁業界等々すべての人たちが大学誘致に熱望をしまいったことはまぎれもない事実です。

今までの日本の産業構造の主流をなすものは超、高、重大のことは代表されるように、大きな工場立地の面積、工場を必要とするものが主流でございました。

残念ながら小浜市内に工場を誘致するに足りるだけの面積を発見することができなかつた。このことは、今回の中核工業団地の誘致の標準面積である百畝を準備することができなかつた事実を徴しても明らかであります。

さらに化学工業を誘致して発展しようとするとはく大な水量を必要とするが、このばく大な、清浄な工業用水を供給することができずに今まで失敗してきたところであります。

本市は面積の要らない場所に工業、産業を立地することを考えなければならぬ、そういうように必然的に運命づけられていたところ、時あたかも軽薄短小の時代が訪れてまいりました。

すなわちエレクトロニクスに代表される軽くて薄くて小さい物が非常に大きな生産価値を有する時代がやってきたわけですね。

この立地条件の突進によって工業立地の地図が塗り変えられていることは御承知のとおりで、これはきわめて歓迎すべき変化でございますので、この波にのって何とかここにそういうものを立地したいという希望をもつております。

さらにバイオテクノロジーに象徴される生物化学、生物物理の発展は、小浜にすでに設置されている国、県の栽培漁業センターに象徴されるように、本市が持っている海が無限の価値を蔵していることを暗示しております。

しかし、この研究にはきわめて高度なものが必要でございます。設置を希望いたしております産業はことごとく、きわめて高度な技術、知識を要求いたしております。

現在、盛んに産、官、学ということばが使われておりますが、いかなる産業といえども自分の持っている技術、研究陣用だけでは、そのニーズにこたえ得る製品を供給することが不可能な時代になってきております。

軽薄短小の産業を誘致しようといいたしますと、どの質問

の中にも、必ず、近くに大学があるか、研究所があるかという質問があるわけですね。

このような二つの事情から推察をいただきますと当地に立地可能な産業、この若狭を活性化させる、最も希望に飛んだ業種を立地しようといいたしますと、どうしても、この地がひとつの研究基地のような様相を呈している事が必要になるわけですね。

大学を誘致しよう、それも理工系の大学を誘致しようという私どもの提案と発想が、この二つの事実を結びついて生まれたものでございます。

さらに、当地は冬になると雪が降ります。先端産業は、ことごとく清潔な空気の中で作業をすることが必要とされておりますが、空気を清浄化させるために最も効果のあるのは雪でございます。

したがってLSI何んかでも集積路が高度化するにつれてLSIの立地基地が雪の降る所へ向かっていることは九州のいわゆる日本のシリコンバレーが東北に移りつつある事実によっても明白であります。

この点でも、当地はひとつの有利な条件を備えたことになるとは思います。

今まで、雪が降る事によってマイナスになっていたが今やプラスの条件になりつつあ

る。これも取り逃してはならないひとつのチャンスであろうと思うわけですね。

こういう条件の中で京阪神という一大後背地を控えた当地は恵まれた条件にあることを自覚するわけですね。

そうとするならばそこに立地が必要とする大学を持つていきたい。大学があることに寄つてきた立地を招来さしめたいと考えるのは当然の帰結であろう。

軽薄短小の時代が過ぎるとソフトの時代に移るわけですね。軽薄短小の工場すらも十分に用意できない地理的条件の中でてもソフトの時代がくると当地は無数の可能性がおります。

無限の可能性に条件整備を整えるためにもどうしても高度の集積体が必要で、現在を踏まえ将来を展望して当地の産業、文化、経済、政治を進展させるものは大学の立地をもつて第一となすと考

一部事務組合

＝病院・消防協議会議員＝

公立小浜病院組合議会議員、若狭消防組合議会議員の選挙の結果は次のとおりです。

- 公立小浜病院組合議会議員
 - 中沢 吉次
 - 森下 智
 - 岡 明男
 - 村松 欣二
 - 松崎 茂明
 - 坂下 均
 - 三國 正二
- 若狭消防組合議会議員
 - 辻 与太夫
 - 山本 肇
 - 浜野 是
 - 中島 輝昭
 - 寺本 久雄
 - 村上 一司
 - 深谷 嘉勝
 - 山藤 貞雄
 - 伊勢謙次郎

当面する諸問題を研究する対策委員会、隣接する町村と相互案件を協議する総合振興協議会委員は次のとおりです

- ◆大学問題対策委員会
 - 委員長 山藤 貞雄
 - 副委員長 山本 肇
 - 委員 中沢 吉次
 - 村上一司
 - 石橋 和彦
 - 今島 寿夫

- ◆地域振興対策委員会
 - 委員長 伊勢謙次郎
 - 副委員長 森下 智
 - 委員 松尾 剛
 - 深谷 嘉勝
 - 坂下 均
 - 三國 正二

- ◆交通対策委員会
 - 委員長 寺本 久雄
 - 副委員長 岡本 治

一般

えたわけてございます。

市庁舎の建設について

庁舎の建設については昨年の十一月ごろ着工ということで諸々の準備を進めていたが、大学誘致問題に関連をして延期をさせていただきました。以後今日まで設計内容を検討し将来のO A化に対応するために一部設計変更なんかも重ねてきております。大学問題は嶺南市町村の御理解、御協力を得て嶺南市町村の連名で知事あて要望書を提出することができたので、議会の同意が得られるならば

次の補正予算の機会に庁舎建設補正を計上させていただきたいと考えているが、起債許可が早くおられるよう懸命に努力をしているが、起債が認めただけでどうかかがポイントになります。

起債をいただき次第すみやかに着工をさせていただきたいと考えております。

現在起債の申請をして国のほうに上げてあります。国ではヒヤリングの段階ですが、時期的には、通常だと秋ごろに起債の許可があり、おられるのが通例ですが、ただ、今度の場合はいろんな事情がありいろいろ吟味されることも多うかろうと思えます。

許可がおられるかおられないかについては自治省の判断によるわけですが、なるべく早く許可がいただきますように全力を挙げて取り組んでいます。

大学誘致の諸問題について

この六月議会で誘致すべき大学名を言うことができなかったというのが事実でございます。

当初は理工系の大学、四年制の大学を誘致したいというところで工学部を持っていない大学の工学部を誘致するという構想で計画を進めてまいりました。

工学部そのものを、その大学の名前で立地をするということが困難な情勢になりましたので、現在は、その大学が工学部を造設するために用意をいたしました計画、設計その他を受け継ぐ形で、しかし大学の名前は未定のまま計画を進めようとしているわけでございます。

しかし、小浜市の大学ではないわけでございます。県が嶺南が、若狭が打って一丸となつて大学を立地していただく。その大学が若狭、嶺南の中ほどに位置している小浜に立地してもらいたいという、こういう思想です。したがって市としては立地するための土地を用意いたさなければなりません。

市の負担というのは土地の負担ということになろうかと思えますが、その他の負担については市民に多くの迷惑をかけることはないと思っております。

市民の皆さんに大学の全貌を知つていただく、大学を誘致するため市全体が燃え上がる必要があると通感をしているところであります。しかし計画が変更になつたこともあり、また小浜市の大学ではなく、少くなくとも嶺南の市町村の御同意、御協力を得なければならぬというこ

とていろいろお願いにまいって今日に至つております。

しかし、目標といたしまして、大学を誘致するための基礎になる条件が整つたのではないかとこのふうに考えております。

しかし条件が整い、すべての同意が得られたとしても、大学を誘致するというところは各自自治体熱望いたしているところであります。

おそらく百に余る自治体が大学誘致を目ざしていると思つております。

その中で有能な学長、大学長、教授を獲得しながら魅力ある学科を編成し声望と信頼によつて全国から学生を吸引するだけの力をつけたいという熱望に達するまでには数多くの問題が山積をしております。

自治体のO A化について

O A化の問題は事務処理のスピードのみでなく、従事する者の労務管理、健康管理がきわめて重大な問題であります。

現在の庁舎において、今、これから施行するO Aのネットワークをつくるというよう

なことは無謀な企てではないかというような筋が多々感じられます。音の影響、光の影響その他

熱の影響等O A化に伴いましては職場の環境に微妙なる変化が生じ、それが労務管理、健康管理に重大な支障を及ぼします。

したがつて、新しい庁舎ができましたならばというふうな目下準備をしているわけでございます。

O A化に対する所信ですが、市役所の中でO Aを実施いたしますために、いわゆるLAN（ローカル・エリア・ネット）を組めなければならずであるというふう

に思っておりますので、センターCPUの導入よりはパソコンの活用とパソコンでもワープロその他の諸機能を果たす機器の導入をはかりたいと考えております。

本年に入りましてから破竹の勢いで伸びておりますエレクトロニクス産業にかげりが見えてまいりましてIC、LSIの需要が減つてきております。

委員 辻 与太夫

委員 濱野 是

委員 村松 欣二

委員 中島 輝昭

委員 松崎 茂明

委員 岡 明男

委員 小川多嘉士

委員 松井 正一

委員 藤田 務

委員 野村 定彦

委員 山本 肇

委員 松尾 剛

委員 岡本 治

委員 深谷 嘉勝

委員 山藤 真雄

委員 松崎 茂明

委員 坂下 均

委員 石橋 和彦

委員 中沢 吉次

委員 辻 与太夫

委員 村上 一司

委員 小川多嘉士

委員 村松 欣二

委員 岡 明男

委員 浜野 是

委員 藤田 務

委員 伊勢謙次郎

委員 寺本 久雄

委員 中島 輝昭

委員 野村 定彦

委員 森下 智

委員 今島 寿夫

委員 松井 正一

委員 三國 正二

委員 三國 正二

委員 三國 正二

委員 三國 正二

委員 三國 正二

◆小浜・三方総合振興協議会

委員 長 中島 輝昭

副委員 長 野村 定彦

委員 森下 智

委員 今島 寿夫

委員 松井 正一

委員 三國 正二

委員 三國 正二

◆小浜・大飯総合振興協議会

委員 長 村松 欣二

副委員 長 岡 明男

委員 浜野 是

委員 藤田 務

委員 伊勢謙次郎

委員 寺本 久雄

委員 中島 輝昭

委員 野村 定彦

委員 森下 智

委員 今島 寿夫

委員 松井 正一

委員 三國 正二

委員 三國 正二

委員 三國 正二

◆環境対策委員会

委員 長 松崎 茂明

副委員 長 岡 明男

委員 小川多嘉士

委員 松井 正一

委員 藤田 務

委員 野村 定彦

委員 山本 肇

委員 松尾 剛

委員 岡本 治

委員 深谷 嘉勝

委員 山藤 真雄

委員 松崎 茂明

委員 坂下 均

委員 石橋 和彦

委員 中沢 吉次

委員 辻 与太夫

委員 村上 一司

委員 小川多嘉士

委員 村松 欣二

委員 岡 明男

委員 浜野 是

委員 藤田 務

委員 伊勢謙次郎

委員 寺本 久雄

委員 中島 輝昭

委員 野村 定彦

委員 森下 智

委員 今島 寿夫

委員 松井 正一

委員 三國 正二

委員 三國 正二

委員 三國 正二

委員 三國 正二

意見書

関係機関へ提出

地方自治法第九十九条第二項、市議会 会議規則第十四条の規定により意見書 を可決して関係機関へ提出した。

昭和六十年産米者米価と米穀政策に関する意見書

本市はもとより県下の農業

は自然的環境と土地の条件から農業の基幹作物は稲作が主体であり、農業粗生産の約七十パーセントをこえる割合となっており、

稲作をめぐる諸情勢は近年特に厳しいものがありますが、中でも米価については長期にわたる抑制と転作政策から稲作所得が減少し、農家経済の停滞を招いております。

一方、農産物の輸入自由化

や枠拡大、さらに経済界では農業過保護、国際分離論などを提唱している状況下にあります。

また食糧の安全、確保の点からも国内生産を優先すべきであります。

また、大蔵省は先ほど「基本米価据え置き、良質米奨励金削減」を発表し、稲作所得の低下と農家経済の抑制策を打ち出しておりますが、こうしたことは農業政策を根底から崩すもので、まことに遺憾であります。

生産者米価は、こうした点から十分配慮し決定されるべきものであるとともに食糧政策の根幹である米穀政策についても生産の安全をはかり生産者米価等、左記の実現を強く要請します。

記

国民の生命の根源として食糧を考えると、食糧の海外依存体質は国の安全保障の点から容認されるものではなく、

一、良質米志向が強まる中で、その生産安定化のため良質米奨励金の現行を確保すること、
二、六十年産米価は六十千

口グラム当たり一万九千三百八円とすること。
三、米の国内完全自給体制を明確にするとともに農畜産物の市場開放を行なわないこと。

以上、地方自治法第九十九条第二項の規定に基づき意見書を提出する。

敦賀・舞鶴間高規格自動車道の早期建設についての議案を提出した。
本市から提出の敦賀・舞鶴間高規格自動車道の早期建設についての議案を含めた六議案が可決をされました。

議長会

嶺南市町村議長会は敦賀市、三方郡、遠敷郡、大飯郡内及び小浜市の各市町村の議長会議長、副議長をもって、嶺南市町村議会の相互の連絡を密にしつつ、研鑽を図り地方自治の振興発展に寄与することを目的として昭和四十六年二月に組織され活動を続けている。

去る五月十七日に敦賀市で総会が開催され小浜市議会の木橋正昭議長が会長に選出されました。

この総会には、本市から高速自動車国道の建設について、広域基幹林道若狭幹線開設促進について、国道162号線及び303号線の改良促進について、北陸新幹線若狭ルートの早期着工について、敦賀・舞鶴間高規格自動車道の早期建設について

この総会には、本市から

の議案が提案され、他の市町村から提案された議案をも含め十四の議案が原案どおり可決されました。

去る四月二十四日に新潟市で定期総会が開催され、本市からは木橋正昭議長が出席いたしました。

請願・陳情

六月定例会では次の請願、陳情を審査しました。

請願第一号 国鉄民営化、ローカル線廃止、国鉄運賃値上げ反対等について（閉会中

の継続審査）

陳情第二号 国家秘密に係るスパイ行為等の防止に関する法律案についての陳情（不採扱）



市議会議員 在職十年

市議会議員として在職十年、その間市政の振興に努められ、その功績まことに顕著なものがあつたとして福井県市議会議長会定期総会、北信越市議会議長会定期総会、全国市議

会議長会定期総会において小浜市議会議員の

辻 与太夫

小川 多嘉士

今島 寿夫

藤田 務

議員の六名が表彰を受けられました。

表彰を受けられました辻

与太夫議員、小川 多嘉士議員、今島 寿夫議員、藤田

務議員、伊勢 謙次郎議員、

寺本 久雄議員の表彰状の伝

達が十八日の本会議開会前に

議場で行なわれました。

伊勢 謙次郎
寺本 久雄